

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立新座高等学校)

目指す学校像	みんなの心が共に響きあう学校
--------	----------------

重点目標	人として信頼され、志を持った生徒を育成する 1 確かな学力を身につける学習システムの下、すべての生徒が学ぶ喜びを実感する《学力の向上》 2 一人一人の生徒に徹底的に寄り添い指導・支援し、多様な生徒の進路希望を実現する《自己実現の醸成》 3 地域社会と連携し、チームとしての学校力の向上を果たす 《開かれた学校づくり》
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 1 1 日 現 在 )	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	
1	<p>(現状)</p> ICT 機器やクラウドシステムを活用した学びが進み、少人数指導やグループ学習を通じた個に応じた学びによる主体的、対話的で深い学びへの指導の実践を行っている。そして、観点別評価による指導と評価の一体化を進めている。 <p>(課題)</p> 昨年度から取り入れた観点別評価について、各教科における指導と評価の一体化の課題を集約し、生徒個々にアプローチする指導に生かすことが求められる。	<p>○観点別評価による指導と評価の一体化により、生徒個々の基礎学力の定着とさらなる学力の向上を図る取組を進める。</p> <p>○生徒個々に対するきめ細かい支援を通じた授業規律の確立を目指し、落ち着いた学習環境作りを行う。</p>	<p>①観点別評価による指導と評価の一体化を推進し、生徒の実態を反映した学習指導、学習評価の検討を進める。</p> <p>②生徒個々にアプローチするための定期考査前の勉強会や各種検定試験への取り組みを通じた学習習慣の定着を進める。</p> <p>③生徒個々に対するきめ細かい支援体制を整え、SC 及びSSW と連携し教育相談的視点での生徒の育成を行う。</p> <p>④各種面談やアンケートを活用して、生徒の実態を把握することにより学習環境を整える。</p>	<p>①授業研究プロジェクト及び各教科、教育課程委員会で指導と評価の一体化の検討を推進。</p> <p>②成績優良者・不振者数推移。また、検定試験等への取組。</p> <p>③遅刻・欠席数の推移や挨拶の励行等の状況およびSC、SSW 活用状況</p> <p>④各種面談の実施状況やアンケート等の調査結果。</p>	<p><b>◎観点別評価を意識した日々の指導に基づき、生徒個々にアプローチする各種取組を行い、生徒の学習環境を整えた。【概ね達成】</b></p> <p>○授業研究プロジェクト委員会及び教育課程委員会を定期的に開催し、観点別評価における指導と評価の一体化に向け、昨年度の課題の修正を行った。</p> <p>○授業研究会年6回、定期考査前勉強会、学習サポーターの配置など、観点別評価を踏まえた学習指導の活性化を推進した結果、成績優良者及び成績不振者数の改善には至らなかった。  <small>(2学期期末 優良者数:今年69名 昨年88名 不振者数:今年144名 昨年119名)</small></p> <p>○生徒支援部に名称を変更し、遅刻指導方法の見直しなどを行い生徒への支援体制を整えた。また、校門での立哨指導も人数を増やして粘り強い指導により挨拶の意識付けや遅刻・欠席の減少に取り組んだが、改善には至らなかった。SC 及びSSW の活用については、本校の実情を踏まえ計画的な活用だけでなく臨時的対応についても、生徒個々にアプローチする継続的な対応を実施できた。</p> <p>○アンケートにおける学校満足度は、生徒 84.6%・保護者 91.1%で概ね良好であった。</p>
2	<p>(現状)</p> キャリア教育の計画的な実施及び総合的な探究の時間の有機的な取組、外部人材の有効な活用により、人間的成長を推進している。 <p>(課題)</p> 教職員と外部人材が一体となった教育活動が実践される中、生徒の自己理解を深めさせ、進路選択の多様性を認識させることが求められる。	<p>○3年間を見据えて、段階的に生徒自身の自己理解を助長させる取組を行う。そして、生徒の多様な進路実現を図り、生徒に寄り添う指導を行う。</p> <p>○学校行事等における生徒の様々な活動を通して、生徒個々の主体性の伸長や社会性の養成を行う。</p>	<p>①総合的な探究の時間を柱に、各学年の目標に沿った各種取組を行い、自分自身を振り返る機会を設定し、多様な進路実現に繋げる。</p> <p>②学習サポーター等による積極的な学習支援を行う。</p> <p>③通級支援による個別指導を必要としている生徒への対応を実施する。</p> <p>④部活動や生徒会活動および学校行事等を通じた体験活動の推進を図る。</p>	<p>①ガイダンス等の実施状況及び総合的な探究時間における生徒の取組状況とキャリア教育指導の状況。</p> <p>②学習サポーターや支援員等の活用状況。</p> <p>③通級支援員による個別指導状況等の活用状況。</p> <p>④部活動加入状況や各種体験活動の内容と取組状況。</p>	<p><b>◎教職員と外部人材が一体となり、生徒に寄り添う教育実践を行った結果、様々な課題を持つ生徒に対して、自己理解の推進と進路選択の多様性を意識づけることができた。【ほぼ達成】</b></p> <p>○総合探究運営委員会を中心に、SST を念頭に各学年目標に沿った総合的な探究の時間を実施し、人間関係構築や多様な進路への意識醸成を図った。また、各分掌で計画した各種ガイダンスについて予定通り実施し各取組状況は概ね良好であり、スムーズに学校生活に反映されている。また、授業等では社会人講師を招いたガイダンスを実施するなど、社会性を養う教育実践を行い、キャリア教育を図った。</p> <p>○学習サポーター(延べ約45日)及び日本語支援員(約30日)による生徒への個別指導により、通常授業時のサポートや定期考査に向けた支援を計画的に行うことができた。</p> <p>○通級支援員(約18日)を計画的に配置し、ソーシャルスキルトレーニングによる生徒への支援を行った。</p> <p>○部活動への加入状況は全体60%、運動部32%、文化部28%で、各種大会への参加も行き結果を残している部活動もあった。また、文化祭については一般公開を実施するなど、生徒の体験活動の確保を行うことができた。</p>
3	<p>(現状)</p> 近隣小中学校との連携を推進したことや各種説明会、ホームページ更新、メール配信などにより、外部に対して効果的に広報することができている。 <p>(課題)</p> 近隣小中学校及び地域との連携をさらに強化するとともに、ホームページによる情報公開を更に進める必要がある。	<p>○PTA・後援会だけではなく地域機関との連携を積極的に進めた学校づくりを行う。</p> <p>○ホームページによる情報公開や学校説明会等を積極的にを行い、外部への本校教育活動の理解度を高める。</p>	<p>①小中学校などの近隣機関との連携事業や各種行事を通して、生徒会や部活動等の連携事業を推進する。</p> <p>②ホームページ更新や学校説明会等を行い、外部への情報発信を積極的に行う。</p>	<p>①校外機関と連携した取組の活動状況。講演会等の外部人材の活用状況。</p> <p>②ホームページ更新状況や学校説明会等の実施状況。</p>	<p><b>◎外部機関との連携、各種説明会、ホームページ更新等により、外部に対して効果的に広報することができた。【ほぼ達成】</b></p> <p>○近隣小学校とのダンス部を通じた連携事業、中学校とは施設開放を通じた地域連携を行った。また、保護者や一般公開を行った文化祭の実施、各種講演会では外部講師の派遣を依頼するなど開かれた学校づくりを推進できた。</p> <p>○中学校訪問(年3回)、学校説明会(年5回)、外部進路相談会を企画・参加し、広報に努めた。また、ホームページ更新を継続的に行い、日誌等への書き込みだけで約76件、その他お知らせや中学生向けページなどを更新した。メール配信については、緊急連絡に限定し約20件の発信を行い、頻繁に情報発信することができた。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人を大事に支援している良い学校だと感じる。</li> <li>・生徒の学校生活アンケート結果「新座高校の授業は分かりやすいか」について、86.5%から79.7%に下がっているのが気になる。ただし、一方で「規則正しい生活を送っているか」71.4%から74.6%に、「新座高校の校則やきほんの「き」を守っているか」88%から93%と上昇していることはすべてにつながっている。</li> <li>・学びあい授業など、主体的で対話的な深い学びの取り組みを実施しており、一人ひとりの学びを支えて大事にしているところが素晴らしい。子供そのものを見てどこで躓き、学びを深めるかをよく見ている。</li> <li>・遅刻数については、それぞれの生徒が抱えている問題のバックグラウンドは深い。そこにどうアプローチするかが重要である。</li> <li>・特別支援と学びあいの授業で新座高校を作り上げてきた。目の前にいる人間とどういう関係を持つていくのが重要である。日本社会がうまくいっていない部分があるが、すべてを教育が補うのは難しい。</li> <li>・良い学校の印象だが、普通の学校になったという印象がある。これまでの新座高校のあゆみは間違っていないし、社会が求める方向性でもあるので自信を持ってほしい。</li> <li>・少人数制授業などにより先生と生徒の距離感や雰囲気は温かくて良い。</li> <li>・外部人材を多く活用していることも良い。</li> <li>・遅刻指導におけるカウンセリングの必要性について、検討の余地があるのではないかと。</li> <li>・防災マニュアルについて、PTA 全国宮城県大会で防災教育について学んできたが、繰り返し防災訓練を実施する意味合いがあり実施すべきである。</li> <li>・外部へもっと良い広報活動ができないだろうか。</li> <li>・PTA との連携の在り方について、今後検討する必要がある。</li> </ul>	
出席者	学校関係者 3名 生徒 2名 事務局(教職員) 12名